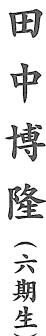


祝賀会十一月六日(土) 大田区民プラザ午後一時より



昭和二十五年の創立以来、本年で五十年目を迎えます。

これに併つて昨年運営委員会が設立され、今後一層の充実発展を期するため、来たる十一月六日（土）、創立五十周年記念行事ならびに記念祝賀会が開催されます。

なにごと学校行事ですので、予算のこともあり、全員に案内状をお出しする訳にもいきませ

ありがとうございます

昨年度は、年会費の納入が少し減りましたが、いつもご協力下さる会員の方々に深く感謝致しております。

寄付も一三三名の方から三十二万四仟円いただきました。百六十二名分の年会費に相当します。うれしい限りです。

今年度もよろしくお願い申し上げます。

『母校五十周年行事・祝賀会への寄付も目標額にまだ達しておりませんので、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。』

月日会五十周年は二〇〇二年

主 な 内 容

- 母校創立五十周年おめでとう
- 特集
- 現代の高校を取り巻く環境を考える
- 月日会ホームページ開設

今春五十期生

二四二名入学

節目の五十期生が入学して半年。揃って元気に卒業して、月日会会員になってくれる日が楽しみです。

創立五十周年を迎えて

学校長 吉田秀男



日頃は月日会名誉会長の家人正男様、会長の田中博隆様をはじめ、会員の皆様には大変お世話になり、感謝申し上げます。

今年は第五十期生が入学して本校創立五〇周年にあたりますが、この記念すべき年を迎えるにあたり、在職四年目になります私の本校に対する思いなどを記させていただきます。

戦後の復興とともに新しい教育基本法、学校教育法の制定を経て新学制の成立した昭和二十五年に開校した本校の歴史はまさに戦後の高校教育の歩みと重なるなかで、今日まで一万三千百四十三名の同窓生が生活信条である「誠実・敬愛・自主」のもとに生徒の自主自律の精神と

八月の集中豪雨

—多摩川グランドに爪あと—

今夏、神奈川県周辺を襲った集中豪雨で、玄倉川で大きな被害を出したことについては、いまだ記憶に新しいことと思いますが、母校のグラウンドのある多摩川も同じように氾濫、下流全

た生徒などを総動員、倒れたネットを戻す作業などを済ませたものの、ゴミ、砂利、泥の撤去を含むグラウンドの復旧工事には、三〇〇万円ほどの費用がかかるといふ話です。

丁度旧盆の八月十三日・十四日にかけてのことで、広い範囲で避難勧告が出されました。幸い死傷者は出なかったものの、増水の速さに河川敷の各施設はどれも対応が間に合わず、当グランドも壊滅状態でした。

る財団法人田園調布が財源的に管理運営をしているもので、このような事態に備えて災害対策費を設けているとのことですが、多額の資金を投じて新しく整備されたばかりなのに、関係者のご苦労がしのべれます。

ひとまず学校側で、事務職員、野球部員、クラブに来てい

(十一期生 鈴木 洋子 財団理事)

自己責任をしつかり果たし、本校を互いに「田高」と呼び合って母校を愛し、「自由で楽しい学校」という伝統と校風を築き、地域に愛され期待される学校づくりなど、数々の実績を残されてきました。



一方、本校の教育環境の良さは抜群で、校歌にある「空蒼きかなた、富士の嶺高し：風かおる野なか、多摩川清し：」の如く緑豊かな自然、小中学校や図書館等の文化施設が隣接する文教地区、静かな田園調布の住宅地と本校があり、地域環境との調和と、気品のあるデザインの校舎棟をはじめ、昨年二月完成の明るい新体育館を加えて施設設備は一層充実しました。

今日、学校の生き残り競争は激烈ですが、今後も本校が益々発展していくため、引き続き月日会が組織をあげてご尽力いただき、あわせて月日会と會員の皆様のご発展とご活躍とを心から願っております。

新会員
四十七期生
二百三十二名
月日會員は延一万三千百四十三名となりました。
連絡可能會員は、約九千五百名です。



四十七期生

二百三十二名

月日会員は延一万三千百四十三名となりました。

連絡可能会員は、約九千五百名です。

多摩



高校時代、私は自転車を飛ばして学校へ行っていた。が、そんな私も進学し、四本目の電車乗り継いで通学している。定期券を持ったのは初めてで、改札口を通るトキも、大人になった気分ですましていた。でも、だんだん通勤ラッシュのムギユムギユ感と一時間の立ちっ放しが苦痛に感じてきた頃、一人のかわったおばあちゃんを見かけた。なんと、そのおばあちゃんは、花粉症らしく、自分のまわりの空気を常にハンケチで追いまわし、クリアーにしていたのです。ちょっとあつげにとられた私は、時が経つのも忘れ、思わず見入ってしまった。そのことがキツカケで、電車の中にいる人を観察するようになった。

化粧をしている人やケイタイで大声で話している人、床に座っている人やむかひのホームに電車がくるまで、涼んでいる人など。まるで電車が、家になったみたいだ。でも、そんな人たちがいるおかげで、私の苦痛の通学時間は、人間ウォッチングと化し楽しく通学している。でも、マナーが守れていない人もたまにいます。ただでさえも通勤で苦痛なのに、ムカつく」という体力を使わせないで欲しいなあ……と思う今日この頃です。

皆様からのご連絡を
お待ちしております。

同窓会活動の提案、会報への投稿、近況報告、訪ね人やバザーの献品等々。

二一四五—〇〇六二

大田区北千束

三二四一一四〇九

月日会々長 田中博隆

FAX 〇三一二七二〇一二六七六

平成10年度総会開催

昨年十一月二十八日、平成十年度月日会総会が池上会館において行われました。当時は、以前は大田区民会館であったところ、かつては、ぼろにあ祭演劇祭部門が催されたところでもあります。そこが近年リニューアルし改称したようです。

出席者は総勢七十余名で、一期から三十期あたりの方々を中心として、吉田秀男校長を始め、PTA、清流会の方々が参加下さいました。

家入正男名誉会長（一期）の開会宣言に始まり小西正見さん（三十七期）の司会で、千本俊江さん（十五期）の議長のもとで議事進行が行われました。新会長には現職田中博隆氏（六期）が満場一致で再選されました。議事は滞りなく終了し、引き続き懇親会に入りました。この



の場では、琴の演奏（琴アンサンブル、十五期小谷敬子、十七期工藤能理子さん）とエレキトーン奏者吉田了子さんにBGMの演奏をお願いし、和やかな雰囲気の中に閉会いたしました。

今年には田高創立五十周年に当たり、三年後（二〇〇二年）は月日会五十周年記念総会が挙行されますので、今回の総会は、これらの節目における志気の向上に大きなステップになったような気がいたします。特に三年後の月日会五十周年においては、田中会長を中心として月日会幹事一同盛大な催しを検討中です。どうぞ会員のみならず、今後とも月日会にご協力とご支援のほどお願いいたします。

（四十五期生 山田 浩一）

ご来賓いただきました先生方

吉田 秀男 校長
木嶋 智恵 教頭
渡辺 ユリ子 事務長
船本 治義 元校長
前田 徹 元校長
慶徳 孝 先生
望月 輝和 先生
内山 弥生 先生
（順不同）

幹事会便り

幹事長 林 和紀（三十三期生）

平成十年度の同窓会の活動報告をいたします。

年間行事に関しては例年どおりに母校行事等に参加してまいりました。

詳細は以下の表を参照願います。

昨年度は定例行事の他に、池上にて月日会総会を開催しました。

総会の報告記事にもありますが、例年に無和やかな会となり大変うれしく思っております。

来賓及び出席の方々には御礼申し上げます。

また、平成十年度に公開は出来ませんでした月日会のホームページの公開は

平成十年度の同窓会の活動報告をいたします。

年間行事に関しては例年どおりに母校行事等に参加してまいりました。

詳細は以下の表を参照願います。

昨年度は定例行事の他に、池上にて月日会総会を開催しました。

総会の報告記事にもありますが、例年に無和やかな会となり大変うれしく思っております。

来賓及び出席の方々には御礼申し上げます。

また、平成十年度に公開は出来ませんでした月日会のホームページの公開は

会則をご存知でない方は一度ご覧になってください。

5. 月日会会報

歴代の会報を掲載します。現在、平成十年度会報だけです。今後、歴代の会報を順次掲載して参ります。

6. 連絡先変更手続き

名簿に記載されている事項に変更があった場合の連絡用ページです。

今までは郵便のみで受け付けましたが、電子メール受信後一定の手続きを経て名簿データの変更が可能になりました。

結婚、引越して住所や名字が変わった方はお気軽に利用ください。

7. 月日会掲示板

同窓生の交流の場です。月日会へのイベントの提案、

会則をご存知でない方は一度ご覧になってください。

5. 月日会会報

歴代の会報を掲載します。現在、平成十年度会報だけです。今後、歴代の会報を順次掲載して参ります。

6. 連絡先変更手続き

名簿に記載されている事項に変更があった場合の連絡用ページです。

今までは郵便のみで受け付けましたが、電子メール受信後一定の手続きを経て名簿データの変更が可能になりました。

結婚、引越して住所や名字が変わった方はお気軽に利用ください。

7. 月日会掲示板

同窓生の交流の場です。月日会へのイベントの提案、

http://www.tsukihikai.gr.jp/

月日会 - 東京都立田園調布高等学校同窓会

1/1 ページ

This page is Japanese only.

東京都立田園調布高等学校同窓会

月日会

Last update 1999/09/13 02:27.
表示確認はInternet Explorer 5で行って下さい。
Netscape では正しく表示されません。ご了承ください。

Menu

- 更新履歴
- 会長挨拶
- 常任幹事紹介
- 月日会会則
- 月日会会報
- 連絡先変更手続き
- 月日会掲示板

ホームページ更新の履歴です
[1999/09/13更新]
ホームページ開設に当たって
[1999/09/13更新]
常任幹事を紹介します
[1999/09/13更新] - 作成中
月日会の会則です
[1999/09/13更新]
これまでに発行された会報を掲載します
[1999/09/13更新] - 作成中
各種連絡や会報送付のための連絡先を変更できます
[1999/09/13更新] - 作成中
同窓生の情報交換や交流を目的とした掲示板です
それ以外の書き込みはご遠慮ください

当サイトの全てのコンテンツを無断で複製することを禁じます。
Copyright (C) 1999 by Tsukihikai, Web Master All rights reserved.

平成10年度月日会活動表	
平成10年4月	46期生238名月日会に入会（月日会会員12,911名） 母校入学式列席、バッジ贈る
5月	年間計画設定 名簿編集
9月	母校文化祭に参加 1)PTAバザーに協賛（売上金¥319,650） 大田区へ¥50,000寄付、残金は母校50周年積立金へ 2)小会議室にて会報の展示
10月	平成10年度会報19号発行
11月	平成10年度月日会総会開始
平成11年3月	母校第47回卒業式列席、卒業証書入筒贈る

会計報告

平成10年度分の月日会収支は下記の通り決算致しましたのでご報告申し上げます。

会 計 熊谷 和巳（38期）

会計監査

平成10年度の会計報告について適正かつ妥当であることを認めます。

あらためて次回総会で報告いたしますが、先に会報でお知らせしておきます。

会計監査 大蔵 正人（8期）
原 雅裕（29期）

平成10年度 決算報告

収入		支出	
前年度繰越金	5,121,930	幹事会費	281,409
		通信事務費	120,507
卒業生入会金	1,185,000	会報発行費	1,474,078
銀行利息等	3,353	名簿編集費	105,000
総会収入	285,000	総会準備費	787,237
年会費	1,108,670	ぼろにあ祭参加費	1,470
名簿売上	4,500	卒業生記念品費	72,187
寄付	324,000	新入生記念品	71,550
母校50周年協賛金	608,500	（母）田園調布寄付	50,000
		ホームページ作成費	696,272
		50周年積立金	500,000
今年度収入計	3,519,023	今年度支出計	4,159,710
合 計	8,640,953	次年度繰越金	4,481,243
		合 計	8,640,953

平成11年度 予算案

収入		支出	
前年度繰越金	4,481,243	幹事会費	360,000
		通信事務費	120,000
卒業生入会金	1,160,000	会報編集費	1,800,000
銀行利息等	3,757	名簿編集費	200,000
年会費	1,200,000	月日会50周年総会準備費	200,000
名簿売り上げ	9,000	ぼろにあ祭参加費	50,000
寄付等	350,000	卒業生記念品費	80,000
		新入生記念品	80,000
		（母）田園調布寄付	50,000
		ホームページ作成費	600,000
		50周年積立金	1,000,000
今年度収入計	2,722,757	今年度支出計	4,540,000
合 計	7,204,000	次年度繰越金	2,664,000
		合 計	7,204,000

蒲原弘幸さん(6期生) 柏陵高校監督で甲子園へ ベスト8!!

この夏の高校野球は公立高校の活躍が目立ちました。千葉の柏陵もその一校です。春夏連続出場で新聞紙面をにぎわしてました。その監督、蒲原弘幸さんは田高の六期生です。早稲田から社会人野球を経て、高校野球の監督として過去四校通算六回甲子園の土を踏みました。八十一年春は印旗高で準優勝の経験もあります。今年はベスト8という輝しい成果をあげました。おめでとうございます。

新しし教室完成

今年の五月に新しいしし教室になりました。機械の進歩はめざましく、いろいろな点において機能が向上したように思われます。まず、しし教室本体の機能ですが、以前のものに比べて使いやすく、生徒にモデルテープを録音させたり、英語の発音練習及びリスニングテスト等、英語の授業において大変活用しております。

また生徒の机に備え付けてあるテレビモニター画面を通して教材を提示したり、ビデオを見せる、というような視覚的授業にも役立っています。

以上のようにしし機器のみだけでなく、視聴覚的機器も備えてあることにより、多面的な授業が展開できるといえるでしょう。

特集

現代の高校を取り巻く環境を考える

最近の教育を取り巻く環境は急速に変化しています。完全五日制に向けて学習指導要領の改訂が行われました。国旗・国歌も法制化され教育現場に波紋をおこしています。東京都でも石原知事が都立高校の再編をとえています。

今回の月日会会報ではこうした議論のきっかけになればと特集を組みました。ここに出ての記事が月日会としての見解ということではなく、原稿執筆者の個人的立場によることをお断りしておきます。

活発な議論がなされ、より良い教育環境が実現されることを期待します。これらの記事に対するご意見・ご感想は月日会ホームページ上又は、会報誌上で意見交換をしたいと思ひます。

(編集部)

平成十四年度から週五日制導入
学習指導要領改訂

三十七期生 小西 正晃

去る三月二十九日、文部省から高等学校学習指導要領が告示された。今回は幼稚園から高校まで全面的な改訂であった。骨子は平成十年七月の教育課程審議会の答申を受けたもので、完全週五日制の下「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、「生きる力」を育成することを重視している。高校においては「情報」の必修化、卒業に必要な単位を八十から七十四単位に

日の丸、君が代は国民が
主人公の憲法と相いれないか

六期生 石井 賢二

We, the Japanese people, acting through our duly elected representatives in the National Diet, determined that we shall secure for ourselves and our posterity the fruits of peaceful cooperation with all nations and the blessing of liberty throughout this land, and resolved that never again shall we be visited with the horrors of war through the action of government, do proclaim that sovereign power resides with the people and do firmly establish this Constitution.

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。

私が都立田園調布高校第六期生として入学したのは一九五五年（昭和三十年）四月だった。胸を膨らませて入学して、なにもかも目新しい限りだった。その中でも強烈なインパクトとして記憶に残っているのが、担任の岡田哲朗先生による一般社会、初日の授業だった。先生はいきなり白紙のわら半紙を生徒に配り「今からゆつくり英文を

二度読み上げるから日本語に訳してください。」と何かは明かさないうまま、二度英文を読み上げたのである。おそらく右記の英文を読み上げたと思う。私には歯が立たなかつた。おそらくクラスで完全に回答できた生徒はいなかつたと思う。それは英語で読み上げた憲法前文の一節ではあつたが、憲法前文と憲法をして生徒に読む気にはせ

校長の岡沢武先生にしても、当時のハリウッド映画「ローマの休日」の主演女優、オーディリー・ヘプバーンの髪形の影響でヘプバーンカットで登校した女生徒の髪をハサミでかき切ら

自分の中の基礎がつかない。現在の学校教育には残念ながらそれだけの余裕はない。一クラス四十人をみるにはあまりにも複雑なシステムになってしまった。多様な教育を実現するにはそれだけの人材が必要であり、地域の人材を活用といつてもなかなか条件がそろわないのが現状である。

今私が勤務している志村高校と、隣の北野高校を廃校にして、新しい単位制の高校を作るという案が教育庁で進んでいる。わかりやすくいえば、田園調布高校と雪谷高校を廃校にして、田園調布と雪谷でもない別の高校を雪谷の跡地に作るというふうなことである。六月二十九日に校長が教育庁に呼ばれて、初めてこの案の説明を受けた。そして、翌三十日には、決定事項であるかのように新聞に発表された。こんな大変なことを、現場の意見を何も聞かず、現場に何も知らせず、突然新聞発表するというのは一体どういうことであらうか？

この計画は実は「都立高校の適正配置計画」という第一から第三次までの計画の一環であり、今回の第二次計画によつて、全都で多くの学校が統廃合の対象になる。「本校は、毎年多くの生徒が入学を希望して受験してくるのに、なぜわけもなく廃校にされるのか？」というのが現場の率直な気持ちである。教職員、生徒会、PTA、同窓会が一致して怒っている。教育庁によると、生徒が自分の学校に誇りをもてないような高校、交通不便校などが選定の対象ということであるが、志村も北野も「自分の学校に誇りをもてないような高校」でないことは、現場の人間が毎日実感していることである。また、本校の場合六十五パーセントの生徒が徒歩あるいは自転車通学しているにしろ、四十数年前、田園調布高校にて私たちに人生を生き抜く力を教えてくれた先生方の熱意が実るためにも、今なにをすべきかを自覚して行動するのみである。

(大田区議会議員・日本共産党所属)

都立高校の統廃合

二十六期生 川上賢一郎

実には、今後の少子化に対応するために都立高校を減らしていくというのが、教育庁の方針である。しかし板橋区では生徒数は減らない。それどころか、志村の廃校予定となつてゐる平成十九年は、今より増えるのである。もし生徒が少なくなるのなら、高校を減らすより、一クラスの人数を今の四十人から、欧米並みに二十〜三十人にすればよい。今、学級崩壊、不登校等いろいろ言われているが、どんな方策を講じていても、一クラスの人数が四十人では効果は期待できない。一クラス二十〜三十人であれば、かなりの問題が解決出来るであらう。

「適正配置計画」により、都立高校は今の三分の二になつてしまふ。少子化、特色ある学校づくり等、大義名分は色々あるようだが、本音は教育庁のある役人が教職員に対して発言した「都立高校一校減れば、どれだけ税金が浮くか」ということに尽きるのであろう。

(月日会副会長)

[] は公募推薦、() は指定推薦、網かけは2部で内数

(浪人を含む延べ人数、2部を除く)

注：都立高校の定員減にともない、この間に卒業生数が減っています。

性別	大学	短大	専門	就職	浪人	その他
男	40%	5%	5%	45%	5%	0%
女	38%	18%	5%	35%	5%	0%
計	39%	12%	5%	40%	5%	0%

(三十七期生 小西 正晃)